

第1分科会

【演 題 等】兵庫版「自殺予防教育プログラム」の作成

～より実効性が高く活用しやすいプログラムをめざして～

【講演・発表者】兵庫県立総合教育センター心の教育推進課

課 長 横山 恵子

指導主事 福田 裕子

【座長・司会】井上 浩史（関西地区研究会常任幹事）

・発表概要

- 1 自殺対策と本県の取組
- 2 「自殺予防に生かせる教育プログラム」の概要
 - (1) 作成当時（2017年）のねらい
 - (2) プログラムの構成
 - (3) 「こころの健康に関するアンケート」を活用した効果測定
- 3 自殺予防教育について
 - (1) 子どもの自殺の現状、推移
 - (2) 自殺予防教育の構造（核となる授業、下地づくりの授業、安全・安心な学校環境）
- 4 兵庫版「自殺予防教育プログラム」について
 - (1) 自殺予防教育プログラム実践校等の調査研究
 - (2) 兵庫版「自殺予防教育プログラム」の概要
- 5 自殺予防教育担当者を対象とした研修会の開催



・発表要旨

- 1 自殺対策と本県の取組
 - 2 「自殺予防に生かせる教育プログラム」の概要
 - (1) 作成当時（2017年）のねらい
「自殺予防教育」に焦点化した「下地づくりの授業」に活用できる授業
 - (2) プログラムの構成
- 「早期の問題認識」と「援助希求的態度の育成」が目標
- STEP方式（STEPごとのねらいをクリアしながら、自殺予防教育に迫る）
- STEP 1 【早期認識】
- 中学校：ストレスとコーピング（対処）を知ろう
高等学校：知っておこう 青年期のこころとからだ
- STEP 2 【援助希求】
- 中学校：こころのSOSを発信しよう
高等学校：上手な聴き方を身につけよう
- STEP 3 【専門的知識】
- 中学校：こころが苦しくなった時の対応を知ろう
高等学校：こころの病と出会ったら
- 中学校用、高等学校用にそれぞれ3STEPの授業案
- (3) 「こころの健康に関するアンケート」を活用した効果測定
- 3 自殺予防教育について
 - (1) 子どもの自殺の現状、推移
 - (2) 自殺予防教育の構造

- ・核となる授業（自殺予防教育を貫く目標）
 - 早期の問題認識（心の危機に気付く力）
 - 援助希求的態度の促進（相談する力）
- ・下地づくりの授業
 - 生と死の教育、心身の健康教育、温かい人間関係を築く教育 等
- ・安全・安心な学校環境
 - 健康観察、教育相談体制、生活アンケート 等

4 兵庫版「自殺予防教育プログラム」について

- (1) 自殺予防教育プログラム実践校等の調査研究
- (2) 兵庫版「自殺予防教育プログラム」の概要
 - 自殺予防教育の「核となる授業」の充実
（「早期の問題認識」、「援助希求的態度の促進」）
 - 「下地づくりの授業」に活用できるショートプログラム

5 自殺予防教育担当者を対象とした研修会の開催

・質疑応答の概要

- Q1 自殺予防教育の必要性を教員に認識してもらうためにはどうすればよいか。
- A1 教員向けの研修の機会を充実させることで周知を図っている。
- Q2 プログラムを実施する際、保護者への啓発はどのように考えればよいか。
- A2 自殺予防教育の必要性を認識してもらえよう、プログラムの内容等を文書等で啓発を図るのが望ましいと考えている。HPに文例も掲載している。
- Q3 実際に事案を経験した教職員への配慮はどうすればよいか。
- A3 研修内容に「自殺予防」を明記する等、予期せず研修を受けることがないように配慮している。
- Q4 教育機関以外との連携は何かあるか。
- A4 知事部局、市長部局との連携についても可能性を模索している。
- Q5 実際にプログラムを導入する際の教育課程上の位置づけの具体例はあるか。
- A5 高校ではホームルームの中で位置づけているケースが多い。中学校では保健での実施も考えられるが、教職員全体での認識の共有を重視していただきたい。
- Q6 教育委員会として啓発する際にはどのような配慮をしているか。
- A6 学校の裁量に合わせての柔軟な実施を促している。